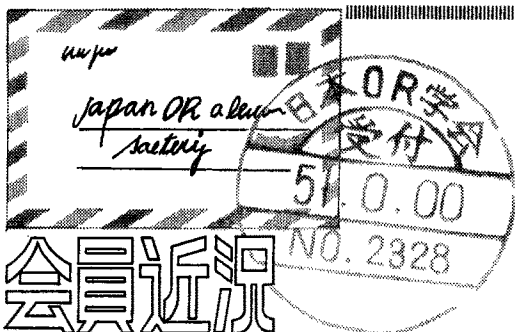




名古屋大学工学部 吉田 雄二
情報工学科

擬似ブル計画法に取り組む 現在主として電子計算機のソフトウェア、特に記号処理システムに関する研究を行なっている。さらにその広い意味での応用として図形の自動解析(記述、認識など)、整数計画法の1つである擬似ブル計画法の発見的、効率的解法の開発などの問題についても興味をもっている。特に擬似ブル計画法については数年前に開発したアルゴリズムが最近の計算機システムの能力と、非数値処理技法との発展でかなり大きな問題が解ける可能性が出てきたので積極的に取り組んでいる。

将来は、計算機システムの形態の変化に合わせて上記のおおのこの問題を、並列的にかつ発見的に扱う場合の問題点、方法、およびシステムのあり方などについて研究したいと思っている。

(他の所属学会)電子通信学会、情報処理学会

広島市役所建設局 小川 康彦
下水道下水計画課

都市土木とOR 学生時代からの夢は土木の世界にORをもちこむことで、利水用貯水池群の効率的操作法、土木施工システム計画などを経験し、現在の部署では下水管渠、ポンプ場、処理場の規模決定にシミュレーションを用いてみました。都市土木の仕事は「交通」(人・車・物質)、「水」(河川・上水道・下水道)の流れを適正に制御するための施設の建設にあり、調査・計画・設計・施工・維持管理を通して合理的判断が求められます。

広島市は広域合併が進行中で90万人となりましたが、

財政難、環境問題の深刻化で、埋立事業、ゴミ対策、空港ジェット化は住民の反対のため難行しています。山地の宅地化も一部凍結し、各種公共事業も伸び悩み、市では総合計画の見直し、コミュニティ・カルテの作成が開始されました。

現代の技術社会の中で地方都市を健全な方向に導くには、行政の発想転換が必要ですが、この中で土木技術の役割を見直してみたいと考えています。

城西大学 岩村 寛三
数学(兼電算)センター

整数計画サイドの研究を希望 1月30日に東工大真壁研で整数計画法研究部会の第1回会合が行なわれた。航空機人員配置問題に対する整数計画・OR・計算機コード上の世界各国における研究の現状を報告させていただいて活が入ったという感じです。部会終了後、米国などの整数計画の研究動向、東京地区のわれわれの今後の研究方向などについて自由な話が2時間ほど行なわれた。

自分としては机上の空論に終わらない、現実の問題から出発した整数計画サイドの研究をしたいこと、そのためには航空機人員配置問題、固定費用付輸送問題などのユーザーへ出向いていってユーザーに教えを乞う、整数計画はむずかしいとぼやいてユーザーをがっかりさせないように、早くていい計算機コードを作ることが大切だと思います。

人類の半分が飢えていることに思いをはせつつ、問題解決手段としての整数計画を強化すべく会員各位およびユーザー各位のご指導をお願いします。

東京瓦斯(株) 東明佐久良
供給管理部供給センター

企業におけるORの浸透 昨年9月まで、システムセンターで計画モデルの開発・計画業務のシステム化を中心にOR的な仕事をしてきましたが、昨年の10月以降、供給センターに異動し、ガスの製造供給管理を中心とした業務を行なっています。

ORという観点から考えますと、過去においてはORの問題解決の場にいたわけですが、今後は、ORの問題発見の場を与えられたことになり、問題発見から解決までの場を設定されたわけですが、発見はすれど、解決する暇と余裕がなかなかないようです。

企業におけるORの浸透、ORの応用、ORに対する

評価を、私の個人的考えで述べますと、過去において紆余曲折はあったものの、着実に浸透していると思われます。

ただLP, DP, シミュレーションといった一見はなやかな使用のされ方はないでしょうし、ORが万能であるという考え方も無理があるようです。

ただ事象の客観的なとらえ方として、事象の客観的記述としてのORが、今後、企業内で定着していくように思えます。

(株)金沢情報処理センター 千葉 正一

より低く、より広く、という進歩 情報処理の仕事をするようになってから、はや20年余、ORとのお付き合いも同じように永くなりました。現在は、北陸の中小企業を主な需要先として、情報処理の需要開拓に寧日ない毎日を送っていますが、これもまる4年になります。

商店や町工場での事務処理に関するデータ処理に明け暮れる中で、まだOR開眼の機会を見いだしていませんが、情報処理を経営の手段として役立てようという要求は当然のことで、このへんで企業の現状を的確につかむためのアブツミニットな情報や、意思決定に必要な予測データを得るために、ORを活用したいと考えています。

より高く、より深く、という進歩もありましょうが、より低く、より広く、という方向の進歩も大切でしょう。日常的に親しみやすいORが、商店や町工場で平易に使われ、効果を発揮するようにと、模索しているこのごろです。

日立製作所
システム開発研究所 黒田 純生

OSの性能の評価方法 オペレーティングシステムの性能評価について、計算機のOSの性能の評価方法として代表的なもの2つあります。1つはOSのシミュレーションモデルを作成しシミュレーションを実行して性能評価のデータを得る方法です。もう1つは、適当なジョブを実際にそのOSのもとで流してみ、CPUtime やスワッピングの回数などを測る方法です。

今年の1月から、後者のベンチマークジョブを流して、性能を評価する仕事に従事しています。どのようなジョブを流すべきかと、OSのスケジューリング方式

のパラメータをどのように決めるかと、いろいろな組合せがあって、実験計画をうまくすると、計算機時間が節約できそうです。

南山大学
経営学部経営学科 沢木 勝茂

近視眼的な日本人論から脱皮 4年間の外国生活から帰国して、またたく間に半年ほどがたった。帰国後、最初の2,3カ月はいや応なしに、日本人および日本社会と外国におけるそれらを比較、考察し、その長所短所を挙げつらう習慣があったが、それも治まり、むしろ最近まで流行したそのような日本人論は近視眼的であると思うようになった。優劣の判断を下したがるのはORマンの悪癖で、自戒せずばなるまい。

昨年より温めてきた問題に取り組んでいる。無限期間における動的計画法で状態変数の集合が有限個ならば、Howardの政策改良法や線形計画法などで最適政策を見つけることが可能であるが、その状態変数の集合が連続体(Continuum)であると今までそのアルゴリズムはなかった。動的計画法の状態変数が分布関数(したがって、その集合は連続体)である場合の部分的に観測可能なマルコフ決定過程論の研究をしている。

勝原 昌敏

米国で経験したOR 長期の米国留学(OR専攻)を終えて昨年帰ってまいりました。全力投球の疲れもとれ、日本のOR活動に協力したいと思います。米国ではニューヨーク大学など4大学で研究生活、教職生活を経験いたしました。

米国では、I. E. 学科、数学科、経営学部、経済学部などにOR専攻が設置され、それぞれの興味と応用分野の中でますます発展いたしております。最近では、いままでの成果をどのように応用し、いろいろのシステムの中でOR技法をいかにインプリメントしていくかに大きな関心が払われています。

大きな複雑なシステムでは、高度な理論と技法を巧みに使用しなくては問題は解けないかもしれません。あるいは簡単なサブ最適化の積み重ねで十分かもしれません。OR活動の前線を応用面から拡大することが、古くして新しくかつ大切な課題と思います。